

《民間教育特別功労賞》



故 須野田 誠 先生

株式会社早稲田アカデミー 前代表取締役社長

《受賞代理人》

瀧本 司 氏

株式会社早稲田アカデミー 代表取締役社長

略歴／1953年9月8日生まれ。75年、大学在学中に学習サークルを設立。76年、同サークルを早稲田大学院生塾に改称。85年、商号を株式会社早稲田アカデミーに改称。99年、同社の株式を公開、日本証券業協会に株式登録。07年、東京証券取引所市場第二部上場。08年5月21日、急性心不全のため他界、享年54歳。著書に『塾の効果を10倍にする家庭の習慣』（主婦と生活社）ほか。

最初は都立西高校の合格者数ナンバー1を目指し、チラシに5年

がとうございます。早稲田アカデミーは1975年に東京都杉並区の阿佐谷で、「本気でやる子どもを育てる」という教育理念のもとにスタートしました。

地位の向上に寄与した功績。

受賞理由

◆受賞のご感想

早稲田アカデミー・代表取締役社長の瀧本司と申します。このたびはこのような栄えある賞を、早稲田アカデミー創業者、須野田誠がいただきました。まことにありがとうございます。



でナンバー1になることを宣言しましたが、3年で達成できました。その後、今度は「早慶付属高校の合格者数ナンバー1を10年で達成します」とチラシで公言し、11年で達成しました。それを達成した2001年に、「開成高校ナンバー1を5年で達成します」と公言し

ました。7年かかってしまいましたが、08年入試でナンバー1になることができました。

須野田は高等教育への協力を惜しみなく行い、また私教育の意義を説いた著書も次々と著しました。さらに将来のリーダーを育てるために起業家養成塾を開設したと言っていました。その開設を見届けた5月21日に急性心不全で他界しました。54歳でした。その際にはここにいらつしやる大勢の皆さまからの多大な応援をいただきました。大変ありがたい思いが走りましたが、「継承と発展」ということですね。か会社社がま

ました。7年かかってしまいましたが、08年入試でナンバー1になることができました。

※早稲田アカデミー・瀧本司社長が受賞のご感想を述べられました。

を育てる」という教育理念を大切に、これからも将来のリーダーを育てるべく、本業に邁進していく所存です。この塾業界にも、微力ながら貢献できれば幸いです。



山本チヨエ 先生

NPO法人全国家庭教育支援センター 理事長

山本チヨエ教育研究所 代表

愛知県私塾協同組合 元理事長

善性館 前塾長

略歴／1936年1月19日生まれ。60年、自宅で学習塾開塾。80年、株式会社善性館設立。86年愛知県私塾協同組合設立に尽力以後同組合理事長を2期歴任。現監事。2009年、NPO法人全国家庭教育支援センター設立、理事長に就任。

受賞理由

東海地方を中心とする地域の民間教育の発展に寄与した功績、及び公私にわたり、特に女性の民間教育事業者の育成に寄与した功績。

◆受賞のご感想

本日は本当にありがとうございます。今も少し足がガクガクと震えております。

私は大きな志があつて塾を始めただけではございません。私が結婚したとき、夫は国家公務員で大学の助手をしていました。給料が4800円で、長屋の家賃が2300円だったのです。生活のために、食べていくために、私は塾を始めました。最初はちゃぶ台を勉強机にしました。



自分の子どもの成長とともに、塾も次第に大きくなり、塾のビルも大きくなっていきました。ずいぶんと借金もし、多くのビルをつくったりしましたが、そういう時代でもあつたのです。

今日本日にありがとうございます。

子どもの教育を考えたとき、やはり家庭の中の教育が原点だと思います。ですから家庭教育支援センターというNPOを立ち上げたのですが、行政からは何の援助もありません。皆さまと一緒に動いてくださると、私たちの出番もあるのではないかと思いますので、どうぞご支援願います。

◆塾業界へのアドバイスとメッセージ

以前、学校に行けなかった子がうちの塾に来て、うちに泊まりながら登校できるようになった子がいます。そしてちゃんと生きていけるようになりました。

特に地域密着型の塾は、その地域の一員として、何か地域や家庭のためにできることをやっていた方がいいと思います。

